

2050年1月1日 土曜日

佐賀—釜山結ぶ日韓海底トンネル

5月5日に開通

新幹線、英国まで乗り入れ

工期は20年
総延長230キロ

2030年の着工以来、工期20年を要した日韓海底トンネルが、今年5月5日開通と決まった。国際海峡を結ぶトンネルとしては20世紀末、英仏間で開業したユーロトンネル以来だが、長さはその4倍以上。5年前に完成したユーラシア大陸横断高速鉄道と接続し、日本の新幹線がロンドンまで乗り入れるという前世紀からの「夢」が、ようやく果たされることになる。

新トンネルは佐賀県唐津市から長崎県・壱岐、対馬の両島の地下を経て、韓国・釜山南西の巨済島までを文字通り一直線に結ぶ。同島と釜山間の海底トンネルを含めた総延長は230キロ余り。ロンドン終着の特急は唐津・釜山間をノンストップで結び、普通列車は壱岐、対馬、巨済島の地下駅で停車する。海底ハイウェイとサイクリングロードが併設され、各島で民泊を楽しみながらの自転車旅行も

可能だ。

日韓海底トンネルの構想は1980年代から民間主導で進められたが、20世紀のうちは「荒唐無稽な夢物語」との見方が多かった。しかし2002年サッカー・ワールドカップ（W杯）の日韓共催を機に政府間協議の対象となり、当時まだ

残存していた「日本からの経済・文化侵略を招く」という韓国民の懸念も、両国関係の好転にしたがって次第に緩和。日韓共同の建設計画が15年に策定された。それでも人類史上に例のない長距離トンネルの掘削は、技術的、財政的に困難を極めた。慎重な試掘や、

産業・貿易・金融政策の共同展開による資金調達を経て、30年によつて本工事に着工し、47年に貫通。開業に向けた整備工事や列車の試運転を続けてきた。その結果、今年春以降には、技術的、財政的に困難を極めた。慎重な試掘や、

が開通式典の日取り。日韓ともに与党が選挙戦の好材料にすることを狙い、韓国が4月、日本が6月を主張して譲らなかった。しかし両国の子供たちが「みっともない争いはやめて」と声をあげ、結局、日韓共通の祝日である「こどもの日」に落ち着いた。



新毎日

おことわり

この第4部は、元日の恒例となった「未来新聞」で、今年で4回目です。21世紀に発行する朝刊を、想像をたくましくして制作しました。今回は2050年1月1日に挑戦です。もちろんコンピューターの2000年問題による、誤って印刷された紙面ではありません。また、当然のことながら、登場人物、省庁、企業などはすべて架空で、出来事についても現実とは一切関係がありません。

(実際の発行日は2000年1月1日です)